

学生のいない教室

井上勝也

心理学系教授

時おり、間違えて学生のいない教室の扉を開けることがある。普段なら開けたとたん、赤青黄—“色の3原色”が目にとびこみ、ザワザワ音を背景にした女子学生の金切り声やムツとする混合臭の中に一条のギョーザの匂い、それに東になった何十本かの視線の矢が飛んでくるのに---今日は、それが無い!

教室は信じられないほど静かであり、机はただの白々しい板の波、黒板は無意味な大きな海草のよう。学生のいない教室が、かくも空しい空間だったとは! 走り去っていく楽しげな満員のバスを独りで見送っているような、うそ寒い感覚にとらわれ、私はあわてて学生のいる教室に向かう。途中、フトこう思う—「何だ、私は学生をアテにしている!!」

カリカチュア---私の授業

私は、教室に入るときはいつも洪面で、

前15度ぐらいのうつむき加減で入ることにしている。洪面をつくるのは、「私はこれから人生一般に論評を加え、その総仕上げとしての高邁かつ深遠なる『老年期のボケ』について語るのだ。高座に上がる落語家みたいにヘラヘラ笑いながら入れるものか!」という気持ちのアピールであり、前かがみなのは、教室に入った時の学生の幾十もの“眼圧”に「絶対に圧倒されまいぞ!」という姿勢による意思表示なのだ。かくして洪面かつ前かがみのまま、肅々と私の授業は始まる。

およそ5分ほどで私の授業用エンジンのウォーミングアップは終わり、10分を過ぎた頃全開の状態になる。ハッタと学生をにらみつけながらしゃべるため目は少し血走り、上ずった調子外れのテノールは息苦しくなり、ネクタイを緩める。しかし、めがねのズリ落ちもズボンのベルトのゆるみもものかわ、エンジンは快調である。そして

このような時なのだ！満を持したかのよう
に、学生に対して特別な心理技法を私が仕
掛けるのは一。その特別な技法の名は、「睡
眠術」。しかし自分でも永年修業を積み、会
議場面などを利用してこの術の極意を会得
しようとしてきたのだが、未だ修業不足を
嘆かざるを得ない。どうしても全体の1割
ぐらいの学生しか、この術にかからないの
だ。

もちろん私にとって、私のこの未熟な術
にはまってくれた学生は、こよなく可愛い。
故に、一喝して術を解くなどという野蛮な
方法をとったことは、これまでに一度もな
い。それどころか、心の中ではこう思っ
ているのだ。「(おそらく)クラブ活動やレポ
ートや実習やアルバイト、それにデートな
どで疲れているのだろう。今日の講義の『ボ
ケ』の心理なんぞ、自分がいまにボケれば
分かることさ。気にしない気にしない、ゆっ
くりおやすみよ。そーだ、歌を歌ってあげ
るよ、子守歌だよ！ --- ♪ねんねんよお
〜オコロリヨ〜、イヤこっちがいいかな？
♪眠れよい子よー」かくして授業は、いよ
いよ佳境に入る。私の授業用エンジンは相
変わらず快調である。

と、その時、ヘンに間のびした声で「セ
ンセー、質問がありま〜す」などという声
が上がることもある。言っておくが、私は
質問されることが大嫌いである。せっかく

自分の名調子に自分自身がうっとりと感じ
し、手は震え、血走った目からは涙まで出
そうになっているというのに、それを妨げ
る「シツモン！」など、猫にいや犬に食
われてしまえ！という気持ちになるのだ。
しかし仕方がない、私はそれと分かる声で
返事をする。「何かね?」。無神経な学生
は続ける。「アノー、今のお話の高齢者の心
理は、一般的真理と考えていいんでしょう
か?」「キミ、何を言っているんだ(ムカム
カッ!)」心理は心理、真理は真理に決まっ
ているじゃないか！そりゃあ時には心理に
は、真理を追わない心理こそ実は心理の真
理ということもあるさ。従ってこの場合の
心理は真理じゃないね(ムカムカッ!)」こ
の答えに納得できないからといって学生諸
君に文句をいう資格がないことは、いうま
でもないだろう。

つくば市の筑波大と違い、私の本務地の
東京大塚・夜間修士での質疑応答は、学生
が社会人であるだけに、より“高級”である。
心理学を学んできていない学生もいるので
心理学の基礎中の基礎を講ずることもある。
「要するに一、犬にベルの音を聞かせると、
キッと耳を立てます。そして、食物を与え
ると、犬はダ液を出しますね？これらの反
応は生まれつき生得的に犬に備わっている
反応ですから、これを無条件反射、といい
ます。ところで、食物を与える度にベルの

音を聞かせ続けると、犬は今度はどんな反応を示すでしょうか？そうです、犬は、ベルの音を聞いただけでダ液を出すようになりますね。これは、犬には本来なかった反応で、新しく獲得した反応（行動）ですね。これぞロシアの生理学者パブロフ、I.P.による「条件反射」の発見です。私たち人間の新しい行動の獲得も、決して全部ではありませんが、これと同じようにして獲得されることがあるのですよ。」「すみません、お話中ですが、質問があります、よろしいでしょうか？」さすが社会人、丁寧な物言いだ高級である。「(しかし少しムカムカ)どうぞー」「犬にベルでダ液、お話はよく分かりました。では、パブロフさんの犬は、今度は食べ物をみると、いつもキッと耳を立てるようになったのでしょうか？」「……!!」「それに実際の生活では、犬の周りには食べ物だらけ、ということもあります。そうすると犬はいつも耳を、キッキキッキキとー」「キッキキッキキミ、そっそっそんなことは、やってみなければ分からないじゃないか!! (ムカムカムカッ!)」。まことに高級きわまりない質疑応答であることを疑う人は、いないだろう。

もうすぐ定年

私は、筑波大では、「老年心理学」と「老年心理学演習」、大塚の夜間修士では「老年

期の心理」「家族ケースワーク」それに「実験心理学研究演習」その他の講義を担当している。講義名・講義内容はそれぞれ違うが、授業のスタイルは同じである。汗面、血走った目、調子外れのテノール、緩んだベルト(買い替えなくてはいけないのだがー)それに、震える手やムカムカもー。

しかしどちらにしても近々私は、これらすべてと別れなければならない。来年3月に定年退職することになっているからだ。もちろん今はまだ“その日”ではないが、しかしその日に私が何を思うかは、実は今から分かっているのだ。私はきつこう思うに違いない。「教室の壊れた椅子も、研究室の本も天井の染みも、事務の方達や警備員さんも、何もかも懐かしい。そして何よりも学生諸君よ、実は私はキミ達をアテにしながら長い教師生活をやってきたことが、今やっと分かった。本当に、ありがとう！」とー。

(いのうえ かつや/老年心理学)